

■ クチキレムシオイ

Chamalycaeus biexcisus

(平成19年9月7日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類



クチキレムシオイ (撮影者：河野 光)

種の概略

殻径 3.5 mm、殻高 1.8 mm ぐらいの小型の巻貝である。蓋は厚い石灰質で外面中央は窪み、内面中央部には乳頭状の突起がある。殻口の内唇の上方は内側に逆「く」の字状に曲がっていて、体層からやや離れるため、その部分が切れ込むので「クチキレ」の名がついた。

生育地と生育状況

全世界で、これまでに阿南市1カ所と勝浦町1カ所の計2カ所のみで生息が確認されているだけである。いずれも山間の神社付近で、石灰岩層の上に広がる森林地域の中の湿った場所に堆積した落ち葉の間に分布している。なお、以前には旧上那賀町にも分布していたとの報告があるが、その場所はダム建設で水没した。

阿南市：本種の基産地である。樹木が伐採されて、敷地もコンクリートになったことにより、一体が明るくなり、地面が乾燥しつつあることから、個体数が減っていると考えられる。雨の後にはこの貝は活発に動き回るので、そのような時に付近を調査すると0～3個体/人・時間が発見できる。

勝浦町内：人の管理があまり行われておらず、また、古木も残り落葉が地面をおおって、昼も薄暗く湿気も多いので、この貝にとって良い状態が保たれていると考えられる。雨後の調査では0～3個体/人・時間が発見できる。

絶滅要因

1) 生息地の消失・分断

旧上那賀町の生息地はダム建設で水没した。阿南市内では、伐採や採土などによって、生息地の消失や分断が起きている。

2) 生息地の質的劣化 (水質環境)

山間に生息する陸生の貝類なので、特に問題はないと考える。

3) 生息地の質的劣化 (構造環境)

樹木の伐採や神社の改修が行われた場所では、生息場の乾燥が進み、生息地の質的劣化が起きている。

4) 過剰な捕獲

人数は少ないもののマニア (収集家) がいる。現在は、過剰に捕獲された形跡はない。

5) 外来種による圧迫

生息地には外来種は認められない。

6) 放流

実施されていない。

保全対策

1) 分断化された個体群の存続

本種は現在のところ、生息地に限産すると考えられており、また、生態がほとんど未解明である。このため、現時点では生息地の環境の現状維持をはかることが最も有効な保全策であると考えられる。よって、巡視員等が分布が確認されている場所を重点的に見回り、その環境が維持されていること、生息密度が低下していないことをモニタリングすることが必要である。

2) 神社の樹木伐採、改修時における配慮

生息環境維持の観点から、阿南市や勝浦町の山間部の神社において、樹木の大規模伐採や境内のコンクリート化など、地面の乾燥を促進すると思われる改修を行うときには、本種の分布について情報を得てから実行するのが望ましい。また、生息地においては地面の落葉が十分に確保され、日陰となり湿度をできるだけ保てる環境を維持する。

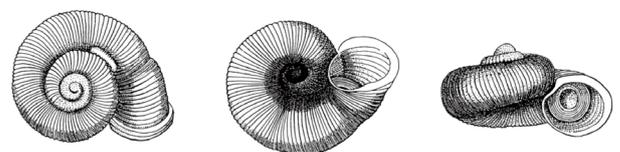
3) 捕獲の監視

現状では、捕獲の影響は大きいとは考えられないが、特殊な愛好家がいることから、巡視員等による監視は必要である。

4) その他

阿南市や勝浦町の山間部の神社において、樹木の大規模伐採や境内のコンクリート化など、地面の乾燥を促進すると思われる改修が行われるときには、本種の生息状況を確認して適切な保全策をとることを検討するのが望ましい。

また、本種の生態研究を急ぎ、個体数を減少させる要因となる事象を予測し、早急に有効な保全方策を検討する必要がある。
(浜野龍夫)



クチキレムシオイ (黒田・阿部、1980より)